

雪かき・砂まきで地域に貢献！ ～できることからはじめよう～



地域の老人ホームで除雪を行う「有朋高校パトロール隊」

「地域のために何かしよう」という思いは、ぬくもりある社会へとつながり、地域でのボランティア活動は、住民同士の交流を深め、新たな絆を生みます。
今月は「地域とのつながりを大切にしたい」と、除雪ボランティアに取り組む高校生や、地域の安全を守る冬季のアダプト・プログラム活動を紹介します。

地域への思いを形に 〈有志で取り組む除雪ボランティア〉

「いろいろな体験や地域の方との触れ合いが楽しいですね。今後も、地域に喜ばれる活動をしたいです」と話すのは「有朋高校パトロール隊」のリーダー土谷博史さん（3年）。

同校では、中央区から北区屯田地区への校舎移転を機に、自分たちが学ぶ地域のためにと、生徒の呼び掛けで同隊を結成し、ボランティア活動を始めました。

「清掃活動や防犯啓発が中心でしたが、冬季も活動しようと、地域の施設を中心に除雪ボランティアを始めました」と話す土谷さん。今冬も約20人のメンバーが、1月下旬から、地域の老人ホームや児童会館、消火栓などの除雪活動に汗を流しています。

感謝の声が励みに

「女性職員だけなので助かります。高校生の頑張りは頭が下がりますね」と



雪に埋もれた消火栓を掘る土谷さん(左)と中干場さん(右)

感謝を伝える児童会館の館長や、高校生が作った雪の滑り台で、歓声をあげながら一緒に遊ぶ子どもたち。
活動に参加した中干場涼さん（3年）は「地域からの感謝の声や子どもたちの笑顔が何よりの励みですね。放課後の限られた時間ですが、できることから頑張りたいです」と笑顔で話します。作業を終えた参加者の顔には、地域に貢献することができたという充実感があふれていました。